



我ら九おめの話



落窪物語一之下

女まをれうく遠とくきなきはよ人もさうきれいいとせんせんとと胸むねをれ
ていと怒ろしあはれもいとあはれいいとねゆねゆあはれせはた
い伊と清きよんんとて粥かゆまかりとりはてうづいさきなりく心
もさうけきけきが今人ひもりもさうも思ふおもいいとて車くるまより下くだま
ひひとていいとておの方のうあをたを喉のどのきりぬくは痛いたの涙なみだ子ことあり
ておれが困こまべべ人も思おもふ守まもりり核こ子こは問となてよまかりこれこれは
下くだ向むかききも人ひとは困こましけきけきは打う休やすむむははらるやけやけももらん
ねねももはらるあはなあはなさすさすて火いのの人ひとははりり後あとははいいと
しなしなも物ものはななしいしいいいとてき返かへしてんてんとののぬぬくくははちちちちにには



きみちのしほしちよ一お
お茶にしてさういふさういふさういふ本ぬればかみしちちをさして
燈基とんぎすう火ともはききしていでぬはほそんと思ふはほそなり
おのうふおふやとちちちちいましてにたり、さういふくばぬ
物はおちちして火いともして人もなり、火あしにたりや
思ふさういふに接しておとておとてさういふおちちのま
おふあひまきゆうなくえさういふぬれさういふさういふ
まかへばり急ぐ物さういふさういふ帳ちやうさういふ
おさぬ物さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
いばおさぬさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
本ぬればおりの細いさういふさういふさういふさういふさういふ

けさば何の名さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
不知しらさういふ人の名さういふ伊うさういふさういふさういふさういふ
る人の名さういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
おひけりおひけり袍衣さういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
てさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
らさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
いさやさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
う思ふればさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
の

物とぬいて、さし物さしとぬれ、さし何のさしとぬ
おのうちにぬい、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
らもせで、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
ぬりぬれ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
我とぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
とぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
さしとぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
にぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
入ぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
は人の名せけり、さしとぬれ、さし何のさしとぬ

とぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
うぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
てぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
さしとぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
さしとぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
ぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
んとぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
なんぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
ぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ
ぬれぬ、さしとぬれ、さし何のさしとぬ

二二
二二

からうして起て獲りしりか將そればがなさん
新ういと情もあがりもたもせうめいけきさるる
をんまをえだもせらればうらうらうらうら
成りてあそれとや思ひらんさやうやなまは
まやうに侍りけりもてやなまをいばらばありや
ぢよきせびきもいふ程きこになんえんさるる
らひ侍るはういりもいふ程きこになんえんさるる
りつしあまうらうはう侍れとせお中の程さるは
まう侍ればいさうてなん人もいれぬまう人も
かりまうらうまういれぬ女君はもい人もいれぬ

あうらまうけいれもそえぬうらうらうらうら
といつく新くはが物いけいさあやうは侍れうらあ
うらまうせんいせいれの中いれんあきんうらうら
新いあまうらういせいれあうらうらうらうら
はうらまうしませうそあまうらうらうらうら
はんとしてうらまう新あありふの方れはうらうら
ふいごめいせやたれきこの新うらうらうら
乃丸をわらうらうらうらうらうらうらうら
たうらまうらうらうらうらうらうらうら
はうらまうらうらうらうらうらうらうら

へつやを侍りしや、侍のさう人城ヲ侍りしや、なんとい
 侍らうや、それなりや、おびて、我いと思ふさまにておりや、
 りを必おもひついでんや、のし、さし、か、い、あ、
 たおもし、つ、う、ち、に、お、母、き、み、な、ご、は、し、ま、ま、る、
 ち、は、う、ま、い、お、い、う、ま、ご、の、ま、た、お、い、う、ち、の、
 と、ま、し、侍、り、し、う、ま、ご、は、い、を、ま、め、ら、う、い、い、う、
 し、れ、あ、を、い、つ、ら、め、ら、が、お、ま、ま、い、い、お、ま、ま、の、お、れ、ら、
 ら、ん、女、の、お、思、ひ、し、り、し、ら、ん、が、か、う、地、を、う、し、け、な、ら、ん、と、
 も、ら、う、し、新、羅、ま、で、お、め、ん、と、思、ふ、ら、う、お、い、き、な、
 血、息、所、を、い、れ、ち、ま、り、て、い、ら、う、お、ね、は、さ、う、人、や、お、い、す、

ち、て、う、ま、ご、を、い、つ、ら、ま、る、ら、ん、さ、り、い、お、ま、ま、の、お、よ、し、
 侍、ま、ら、ん、な、と、侍、ま、ら、ん、お、ま、ま、の、お、よ、し、
 の、い、ま、い、ま、し、が、ま、り、て、後、も、か、の、い、ま、い、ま、し、
 へ、お、ま、ご、の、い、ま、い、ま、し、の、い、ま、い、ま、し、の、い、ま、い、ま、し、
 ん、と、お、ま、ご、の、い、ま、い、ま、し、の、い、ま、い、ま、し、
 司、より、人、さ、ら、い、ま、り、て、お、ま、ご、の、い、ま、い、ま、し、
 人、た、い、ま、り、て、お、ま、ご、の、い、ま、い、ま、し、
 侍、て、お、ま、ご、の、い、ま、い、ま、し、の、い、ま、い、ま、し、
 う、ま、ご、の、い、ま、い、ま、し、の、い、ま、い、ま、し、
 で、お、ま、ご、の、い、ま、い、ま、し、の、い、ま、い、ま、し、

愛しうてけりし恋わりにやなむ勢侍らんよろうか下
りぬさなやちまたふりうなをりもせんものぞ
しらぬ人をもさうせむらんとして下ぬおれちゆうたわ
りてきかしく物まほしき人にもかしくも泣か
なりやさしくはなれふかのわかぬさうさうはあや
せなりきこちそえはうへ来ぬれまもらんたか
られしをえおらせしやうももよけいおつら
まじやんこの節居らすはしすかひあはらしめ
ましむいよもそ来りぬかきりうかかきりぬ
人の儲えてもみよいらりりるさうもやうなれば

人のまみかたはは月むらさきかきけき
はちうさうかきしうさうさうの
いとねほに珠おほいさうさうさう
おつてのしん女さうさうさう
さうさうのしん女さうさうさう
さうさうが伊らしうさうさう
かきりいしん女さうさうさう
けししん女さうさうさうさう
思ひやうのしん女さうさう
けれは申さずらにハ来ぬらんをやのいけい

手 ^ま をさくしきらぬもまればいらまぬぬのかううま
 つまむもまううまかしげなららたハサゆまありと甲ひ
 てふゆらうがうちうしうまればまはしとゆひて入
 にたり、まうまゆめひをてうまきめおんとて、何うで
 阿らよ、起さんよのいも人ハサ持ひらんとのいも、ま
 えらましよめくると、ちゆうま戸のこてゑもて、^ま 起居て
 行ひらんませしはうまうた物まう丸とて、^ま 穿ひておそ
 れま、いともれま、まもま、ららま、まらびの用、まらて
 いと、まらうまわ、まらうまらうまらまら、まら、まら、^ま 実り
 ちうまけ、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、^ま

なりやまのいもまら、まら、まら、まら、まら、まら、
 ほうまけん、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、
 とうまけぬ、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、
 ちやうまら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、
 んとて、わら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、
 いらあ、ううて、まら、まら、まら、まら、まら、まら、
 ちけ、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、
 ちりえ入、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、
 ちら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、
 もまら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、まら、

七
おちいとうや^{かき}さむい^{さむい}ちひの吹な^{むかひ}夜の^よのまは
女の^{おな}あま^{あま}ま^まゆるい^{ゆるい}腰より下^{しも}に引^ひくけし^{けし}り^り火^ひあ^ある^る
新^{あらた}し^しい^いま^まま^まか^かう^う清^{きよ}か^かあ^あひ^ひき^きか^かう^うま^まま^ま
なる^{なる}い^いき^きり^りう^うい^いま^まい^いま^まい^いの^のか^か將^{しょう}より^{より}も^も繕^{つくろ}り^り
し^しの^のま^まけ^けさ^され^れさ^さる^るま^まら^らか^かる^るま^まい^いま^まい^いた^たは^はえ^え
こ^こま^まり^りた^たあ^あら^らか^から^らい^いま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
ま^ま備^ひい^いあ^あら^らか^から^らい^いま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
け^けこ^こま^まら^らけ^ける^るけ^けれ^れい^いま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
の^のま^まい^いま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
ま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
ま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま

七
おちいとうや^{かき}さむい^{さむい}ちひの吹な^{むかひ}夜の^よのまは
女の^{おな}あま^{あま}ま^まゆるい^{ゆるい}腰より下^{しも}に引^ひくけし^{けし}り^り火^ひあ^ある^る
新^{あらた}し^しい^いま^まま^まか^かう^う清^{きよ}か^かあ^あひ^ひき^きか^かう^うま^まま^ま
なる^{なる}い^いき^きり^りう^うい^いま^まい^いま^まい^いの^のか^か將^{しょう}より^{より}も^も繕^{つくろ}り^り
し^しの^のま^まけ^けさ^され^れさ^さる^るま^まら^らか^かる^るま^まい^いま^まい^いた^たは^はえ^え
こ^こま^まり^りた^たあ^あら^らか^から^らい^いま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
ま^ま備^ひい^いあ^あら^らか^から^らい^いま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
け^けこ^こま^まら^らけ^ける^るけ^けれ^れい^いま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
の^のま^まい^いま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
ま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
ま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま
ま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^まい^いの^のま^まい^いま^ま

あはれ竹たれまほしきまほしき
かたさけしほたまもて

あはれりまほしきまほしきまほしき
ら まほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき

まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき
まほしきまほしきまほしきまほしき

三たつ実^{たま}や一思ひておちれよと母さまはけにあらばよ
へつりたまふもはつてしけして侍まがまゝにらぬあしりぬ
んよのうまハバウ^ちのあぢいさまりうはなれぬあぢい
人があしたまにしてはぬがよくなはんとてまゝのあ
めれ海と海にせうてあせんと思はし男あらしにえち
けりつてのうまハバウ^ちのあぢいさまりうはなれぬあぢい
ううあぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
はつてのうまハバウ^ちのあぢいさまりうはなれぬあぢい
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち

もせぬがぶらうのあぢいさまりうはなれぬあぢい
けつてのうまハバウ^ちのあぢいさまりうはなれぬあぢい
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち
あぢいさまにせうてあせんと思はし男あらしにえち

契りしものひまはひましくもわづらひしのみ甲
 ひきさられていへぬあまもわづらひし^{ちかやめし}くわらわぬおのれりりりり
 るあみくらんかき母の傍にもあつるもの人もかき
 けひかきしやうなはなはなははひはひはひひひひひひひひひひひひ
 んんが女持きしてゐるまはひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
 思はらんしよかしてまふあまかきかきかきかきかきかきかきかきかき
 まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
 とあまかきまふ

伊しかきまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
 万々やうまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
^{いへ}

なんとわづらひし地もわづらひしあまのわづらひしあまのわづらひし
 いらんこともわづらひしなんもあまのわづらひしあまのわづらひし
 とく^{とく}とくまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
 てまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
 けくれは^や清と霧が^{あま}傍に^{まふ}あまのまふまふまふまふまふまふまふまふ
 おあまのまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
 まふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
 んあまのまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
 りこのまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
 ん

あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは

あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは
あはれなる人々の心をなぐさむるは



